



平成 22 年 9 月期国際キワニス日本地区事業報告

(2009.10.1~2010.9.30)

昨年の福岡大会決議にある「今すぐ行動に移そう」にそってこの 1 年間キワニスドールをはじめとする様々な奉仕活動を積極的に展開するとともに、各クラブへのガバナー公式訪問等を通じ各クラブの独自性の尊重と情報交換に努めてきました。その成果には現在道半ばの部分もありますが、各地における子ども最優先のキワニス奉仕活動は日頃の地道な努力が評価され、知名度の高揚と会員増強に結び付きつつあります。当期における具体的な事業の概要を以下の通り報告します。

1. クラブの新設と会員増強

年間少なくとも 2 クラブを新設するべく各地において努力が続けられてきましたが、今期は 7 月に女性を中心とした千代田クラブが 25 名の会員をもって誕生し、多様性 (inclusiveness) 追求のモットーに沿って大きな前進を遂げました。一方、新宿クラブが 7 月に解散しましたので、クラブ数は 28 で変わりません。

会員増強につきましては、会員数 5%以上の純増(小規模クラブはチャーターメンバー数確保)という目標に対し、9 月末の会員数は 1,616 人となり、前期末 (1,587 人) を 2%弱上回りました。残念ながら目標達成は叶いませんでしたが、サテライトクラブ会員の増加もあって、2 期連続の減少は食い止めることができました。

2. キワニス日本財団への協力と共同事業の展開

キワニス日本財団(KJF)が今年 3 月に公益法人として認定を受けたこともあり、各クラブの行う社会奉仕プロジェクトや一般公募の公益的事業に対する資金助成、日本文化賞授賞、犠牲的英雄賞授賞、各種災害義捐金募金活動などを共同して実行する仕組みを軌道に乗せ、また、そのための事務体制整備も進めることができました(下記関連項目ご参照)。

3. 国際キワニスへの積極的参画

1) 国際会議への積極的参加

国際会議へは以下の通り例年に比べ多数の会員が参加しました。

①ASPAC 台北大会

参加目標 7 クラブ以上、80 人、実績は 12 クラブ、97 人

②国際キワニス年次総会ラスベガス大会

参加目標 7クラブ以上、30人、実績は6クラブ、22人

③国際キワニス ASPAC 研修会（於 メルボルン）

3名参加（ガバナー、事務総長、スタッフ）

なお、ASPAC の組織改革、体制強化等を検討する「諮問委員会」(ACC)に小田国際理事と大堀前ガバナー(6月以降横山前事務総長に交代)が自主的に参画しています。

2) 国際キワニス要人の来訪

日本地区担当のカウンセラーである小田国際理事及び国際キワニス財団の清重理事以外の役員の来訪は有りませんでした。キワニスマガジンの編集長 Jack Brockley 氏がキワニスドール・シンポジウムと千葉クラブの「子どもと行う里山自然保護活動」取材のため来日したので、関係者が積極的に支援・協力しました。その時の模様が既にキワニス国際のウェブサイトの一部報じられたほか、今後のマガジンに更に詳しい記事・写真が掲載される予定です。なお、Brian Cunat 元国際キワニス会長ご夫妻が京都大会に出席されました。

4. 奉仕活動プロジェクトの推進

当期も前期に引き続きキワニスドールの普及活動を中心に、子どものための諸活動が各地で活発に行われました。これらの活動は単に奉仕活動自体の成果のみならず、キワニスを世間に知っていただき、そのことによって仲間が増えるという効果が期待されております。

① キワニスドール・シンポジウムの開催

キワニス・ワン・デーの参加行事の一環として、東京、横浜、埼玉クラブが第2回キワニスドール・シンポジウムを共同開催（於東京、4月17日）、これに呼応して関西北ディビジョン(神戸、京都、西宮、芦屋の4クラブ)でも同様のシンポジウムを同時開催、ITを活用して一部プログラムを共有し、多数の参加者の前で、ドールを作る側、使う側成果の双方からそれぞれの経験に基づく発表が行われるなど極めて有意義な交流の場となりました。

② ドールの寄贈状況

2009年10月から本年9月末までの間に7,550個、延べ270箇所の医療機関などに寄贈することが出来ました。（前年同期実績6,157個、延べ214箇所）

③ キワニス・ワン・デーの実施

国際キワニスの提案による「キワニス・ワン・デー」は今年も4月10日(土)を中心に行われ、22のクラブがそれぞれ地域の実情に合った独自の奉仕活動を実施し、各地のマスコミなどに報じられたケースも多数ありました。

④ 公益的活動・事業への資金助成

各クラブの行う公益的プロジェクトや一般応募による社会奉仕活動の中から特に優れているものを選び、その事業経費に対し KJF と連携して資金助成を行いました。また、国際的相互理解を深め、海外の子ども達を支援するプロジェクトに対しても KJF と連携して積極的に資金助成致しました。

【対クラブ】

- (i) 東京：講演会開催 「学生ボランティア活動の明日」～キワニスとともに～
- (ii) 仙台：仙台市中学校春季ソフトボール大会の後援
- (iii) 福山：福山キワニスクラブ杯少女親善球技大会の開催
- (iv) 鹿児島：青少年教育キャンプの開催
- (v) 東京/横浜/埼玉：第 2 回キワニスドール・シンポジウムの開催
- (vi) 神戸/京都/西宮/芦屋：東京クラブ等と同時に行なった
キワニスドール・シンポジウムの開催

【対一般】

- (i) (株)現代ふろだくしょん：劇映画制作『大地の詩』～留岡幸助物語
－監督・山田火砂子、脚本・長坂秀佳 山田火砂子、主演・村上弘明

【対海外】

- (i) オペレーション・スマイル：世界の口唇裂・口蓋裂障害の子ども達への
手術費用提供
- (ii) インドネシアふるさと創生財団：貧困地域の子ども達のための楽器寄贈、
演奏教室運営費助成

5. 募金および寄付活動

当期も各クラブの協力を得て、アニュアル・クラブ・ギフト・キャンペーン 283 万円、台湾台風災害義捐金 80 万円、フィリピン台風災害義捐金 72 万円、ハイチ地震災害義捐金 113 万円、チリ地震災害義捐金 92 万円等の募金を行い、KJF 経由 KIF へ寄付されました。

また、京都大会の会場に募金箱を設置し「アジア失明予防の会」への寄付を募ったところ、総額 50 万円強集まりましたので、近々同会へ寄贈する予定です。

6. 広報活動の強化

各クラブのホームページ等を活用した広報活動が逐次充実されてきている上、キワニス奉仕活動がマスコミや専門誌に取り上げられる機会も増えております。「キワニスジャパン」については極力、記録本位に留める目的で作成されておりますが、クラブ相互間の交流、情報交換に役立つことも狙っております。

今後第 2 次 Worldwide Service Project (“ELIMINATE” project) のキャンペーンを推進する上でも世間一般に対する情報発信を更に充実していくことが望まれます。

7. 年会費の改定

9月の年次総会において、長年に亘る東京クラブへの事務経費面の依存解消、財務基盤強化等のため、地区年会費を来期以降1人当たり1万円へ引き上げる一方、若年層の会員増強に資するため、大学生、専門学校生などユースメンバーに対する半額割引制を導入することが決定されました。

8. 表彰関係

1) 「キワニス日本文化賞」は華道家の池坊美佳氏に授与されました。

一方、KIFの「ロバートP. コネリーメダル」及びKJFの「犠牲的英雄賞」は京都の2人の高校生、杉本亨光、木ノ下貴紀の両氏に授与されました。

2) 国際キワニスからの表彰

- ・2008-09 Distinguished Club：西宮クラブ
- ・2008-09 アニュアル・クラブ・ギフト・キャンペーン：大堀太千男 前ガバナー
佐藤満秋 2008-09 地区 KIF 委員長

3) 日本地区の表彰

昨年10月の役員会で承認された「表彰基準」に基づき、次の表彰が決定しました。

<<クラブ表彰>>

- ・会員増強：最優秀賞：埼玉クラブ
- ・キワニスドール寄贈数：最優秀賞：札幌クラブ
- ・寄付活動：最優秀賞：西宮クラブ
- ・出席率：(60%以上)渋谷クラブほか8クラブ
(改善—前年比5%以上)埼玉クラブほか6クラブ
- ・国際会議出席：東京クラブほか4クラブ
- ・ガバナー特別表彰：(キワニスドール・シンポジウムの同時合同開催に対し)
東京、横浜、埼玉、神戸、京都、西宮、芦屋の各クラブ

<<個人表彰>>

- ・会員増強：(新入会員2名以上紹介)：15クラブ 24名
- ・ガバナー特別表彰：(例会企画への多大な貢献) 神戸クラブ 篠崎 治
- ・ガバナー特別表彰：(在籍30年以上、85歳以上の会員) 8クラブ 29名

以上